山陽スピリット ニュース　No.28

2022(令和4)年4月1日

発行：学校法人　山陽学園　山陽スピリット推進室

心の宝物

山陽学園大学・山陽学園短期大学
同窓会会長　　渡　邉　朋　子

待ちわびた春がやってまいりました。
令和4年度新入生の皆さま、ご入学誠におめでとうございます。

山陽学園大学・短期大学の学生となられ、この平井の丘で新たな蕾が開こうとしています。

どんな時代になっても、桜は毎年何も変わることなく、華麗に美しい花を咲かせます。

変革の時をどう生きていくのかと考えたとき、悩み苦しむこともあるでしょう。私たちは、この時代に試されているのかもしれません。

様々なことにチャレンジ出来るのが、大学時代です。どの時代にも左右されない桜のように、光り輝く学生時代をお過ごしください。

弓道一直線

私は、中学校から8年間、青春時代を山陽学園で過ごしました。

中学、高校時代は、部活中心の毎日。弓道部に所属して、月、火、水、木、金、土、日、弓道三昧の日々でした。中学校から弓が引けるなんて、中高一貫校ならではの醍醐味です。私の妹も弓道部です。武道は、一日休むと三日遅れる世界です。授業が終わると部室に走り、的をかける場所の準備を始めます。

当時は弓道場が無かったので、的場は畳を代用していました。畳を背中にかついで射位から28メートル先まで運びます。背中は、畳のい草だらけ。他の生徒より、体操服の傷みが早かったと、記憶しています。この準備が終わると、走る、腹筋、背筋、腕立て伏せ。次に、弓を張る、弦の確認、かけ（右手を保護する鹿革製の道具）と胸当てを付ける、素引き、巻き藁を射る。ここから、弓道の八つの基本動作（足踏み・胴造り・弓構え・打起こし・引き分け・会・離れ・残心）に従い的に向かうことが出来るのです。

矢をつがえて的に向かう瞬間は、自分との勝負の時であり、無となる瞬間です。的に向かう私は、いつも真剣でした。当たっても外れても、その時が100%充実ならそれで良し。試合では100%的中を求められます。団体戦では、皆が心を一つにせねば勝てません。個人戦となると、心臓の鼓動が聞こえてくる、足は震える、みんなが見ている。それに打ち勝つ人が優勝します。試合前には、短大弓道部の先輩方が指導に来てくださいます。あの先輩のように綺麗で強い弓引きになりたいと、あこがれていたものです。夏休みには、今はもうなくなってしまった後楽園外苑の弓道場で岡山県立岡山東商業高等学校弓道部の皆さんと汗みどろで合同練習をしました。後楽園近くを通るたびに思い出します。

短大に入学してからは、あこがれだった名入れをした袴を身につけて、真っ白の足袋を履いて、試合三昧の日々。やっぱり部活中心の毎日。紫のハチマ

キに山陽の校章を黄色で刺繍。自分で言うのも何ですが、カッコイイのです。

日々のすべてをかけて

西日本学生弓道選手権大会を皮切りに、全日本学生弓道選手権大会等の県外試合にもたくさん行かせてもらいました。楽しかったのは、岡山県内の大学の試合（通称インカレ）です。

他大学との交流の場であり、戦いの場でもあります。主将の「さぁいこーう　さぁいこう」の活気ある掛け声で的に向かいます。各大学がそれぞれ違った掛け声で的に向かっていきます。２年生のインカレでは、全射皆中で最高的中者となり自分でもビックリの成績を収めることが出来ました。あの時いただいたトロフィーは宝物です。ノートルダム清心女子大学の弓の先生が、ライバルなのにおめでとう、よかったね、すごいよって走ってこられました。その時の素敵なお優しい笑顔が忘れられません。卒業時の追い出しコンパも楽しかったです。後輩たちが、楽しく追い出してくれました。ありがとう。

社会人になってからも、弓のお稽古は続きます。仕事が終わったら、岡山県総合グランド内の弓道場や、吉備津神社の弓道場で先輩や同級生、弓の先生方と練習に励みました。弓道教本の表紙にも登場する弓道家（日置流）で範士九段の故稲垣源四郎先生に、江戸時代から続く弓之町の徳山弓道場にて稽古をつけていただいた、たった数時間の胸躍る思い出は、今でも私の脳裏に色濃く残っています。

弓が好きで好きで稽古に行く毎日は、仕事のストレス解消となり全く苦になりませんでした。社会人となってからの成績は、全国青年大会岡山県代表として、山陽学園の先輩と共に出場できたこと。国体成年女子岡山県代表となったこと。そして、岡山県内の試合で何度か優勝したことです。

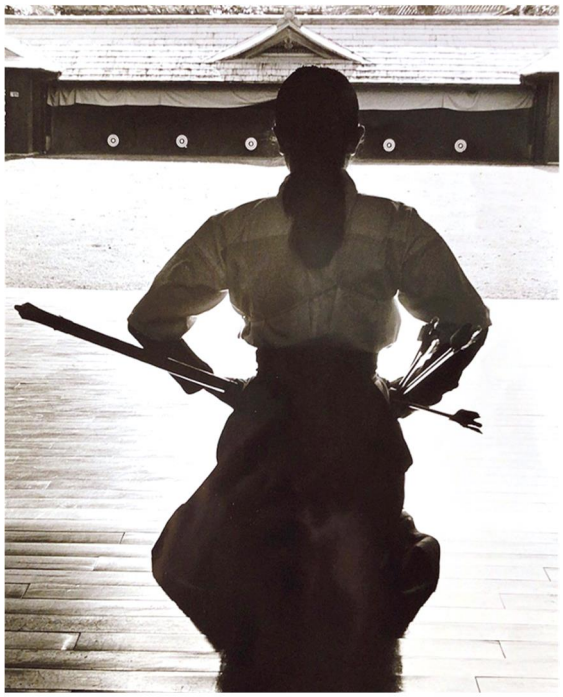
国体は、遠的・近的で競います。狙う的の大きさや射距離が違うので、切り替えが大変です。倉敷弓道場にて、高校チームと成年チームが合同で毎週土日に厳しい猛特訓を受け、汗を流しました。クタクタに疲れて、次の日は仕事の日々でしたが、心身ともに鍛えていただき上手く両立。忍耐、忍耐、と心で唱えながら練習していました。添付写真のブローチは、第44回国民体育大会中国ブロック大会のもので、袴に付けて出場しました。島根県の県花がモチーフになっています。

記念のブローチ

京都で毎年行われている、三十三間堂大的全国大会。三十三間堂通し矢とも言い、約60メートル先の直径1メートルの的を狙い、競射します。新成人の艶やかな着物と、たすき掛けの姿に、凛々しさと美しさを感じさせられました。私も着物にたすき掛けで、大的に矢を放ってきました。極寒の京都三十三間堂に清々しく弦音が響き渡ります。

珍しい試合では、源平扇の的全国弓道大会があります。源平合戦にちなんだもので、扇を的として競う試合です。試合のパンフレットには、那須与一（なすのよいち）が描かれていました。古の時代に思いをはせながら、与一はどのような気持ちで扇の的を射抜いたのか？そんな歴史にも触れられる大会でした。その大会では、余興として花札の絵柄の五寸的（直径15センチ）を射抜く競技があり、私は坊主の五光に「射っ」。賞品は、その的とおばあちゃまが着用なさるようなワンピースで、祖母にプレゼントしました。祖母の一言「まあ、弓の試合に行ってこねーなもんもらえるんじゃなー。次もがんばって!」

色々な場所で弓を引き、様々な人々と関わりを持ち、年を追うごとに完成されていく弓道の奥深さをしみじみと感じました。



心を無にする

この礎となったのは、山陽学園です。ここで出会った私の弓道の師である、小橋一太先生、太田勝正先生は、他界されてしまいましたが、今でも心から感謝しています。弓道部の先輩方も、すばらしい方々が多く今でも尊敬する気持ちは変わりません。

山陽学園で出会った弓道は、私の青春時代を輝かしいものにしてくれました。私の今までの人生にどれほど役に立ったかと。もう感謝しかないです。

現在弓のお道具一式は、床の間のよく見える場所に保管しています。矢筒の中でイヌワシの羽が朽ちぬまに、生涯スポーツである弓の世界に復帰したいと思っています。

おばあちゃんになってから、背筋をピーンとカッコよく道場に立っていたい（夢）です。

歳を重ね、若き日を振り返った時「あの頃はよかったな、楽しかったな、あんなこともあった、こんなことも」とクスっと笑える思い出は、心の宝物です。

絵：渡邉朋子

～山陽スピリット推進室からのお知らせ～

新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。

山陽スピリット推進室では、上代淑先生の遺訓「日々のおしえ」に、皆様からご応募いただいた平井キャンパスの写真を添えて、ポストカードを作成しています。募集期間は、11月から12月になりますので、春夏の写真は前期のうちにベストショットを撮影しておいてください。

四季折々の素敵なキャンパスの写真をお待ちしています。